

研究課題名	【Web 会議番号 2020_14】 重症消化管アレルギーの病態解明
フリガナ	モリタ ヒデアキ
代表者名	森田 英明
所属機関（機関名） （役職名）	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 室長
本助成金による発 表論文，学会発表	Toyama Y et al. J Allergy Clin Immunol Pract. 2021;9:547-549.

研究結果要約

近年、本邦において新生児・乳児消化管アレルギー（以下、消化管アレルギー）の症例報告が急激に増加している。消化管アレルギーは食物アレルギーの一種であるが、一般的な食物アレルギーとは病態が異なると考えられている。一般的な食物アレルギーとは異なり、消化管アレルギーは IgE 抗体を介さない機序（非 IgE 依存型アレルギー）が想定されているが、その病態の詳細はほとんど明らかになっていない。消化管アレルギーは、重篤な成長障害を認める症例が存在すること、原因抗原の同定が困難な症例が多いことから、その病態の解明及び新たな治療法の開発が期待されている。そこで本研究では、重症消化管アレルギー病態を明らかにすることを目的として、重症消化管アレルギーの動物モデルの作成と、原因抗原の検討を行った。その結果、2つの方法を用いて、体重増加不良や組織への異常好酸球浸潤を認める消化管アレルギー様の動物モデルを確立することに成功した。また、消化管アレルギーを誘発する食物の成分は、一般的な食物アレルギーとは異なる可能性を見出した。